

DOCKET NO.: 272232US0PCT

10/540571
JC17 Rec'd PCT/PTO 24 JUN 2005

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Naoe SAKURAI, et al.
SERIAL NO.: NEW U.S. PCT APPLICATION
FILED: HERewith
INTERNATIONAL APPLICATION NO.: PCT/JP03/12229
INTERNATIONAL FILING DATE: September 25, 2003
FOR: DETERGENT COMPOSITION

**REQUEST FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119
AND THE INTERNATIONAL CONVENTION**

Commissioner for Patents
Alexandria, Virginia 22313

Sir:

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicant claims as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NO</u>	<u>DAY/MONTH/YEAR</u>
Japan	2002-380452	27 December 2002

Certified copies of the corresponding Convention application(s) were submitted to the International Bureau in PCT Application No. PCT/JP03/12229. Receipt of the certified copy(s) by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.

Respectfully submitted,
OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.



Norman F. Oblon
Attorney of Record
Registration No. 24,618
Surinder Sachar
Registration No. 34,423

Customer Number
22850

(703) 413-3000
Fax No. (703) 413-2220
(OSMMN 08/03)

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

25.09.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 2 月 2 7 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 8 0 4 5 2
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 3 8 0 4 5 2]

出 願 人 花王株式会社
Applicant(s):

REC'D 13 NOV 2003

WIPO

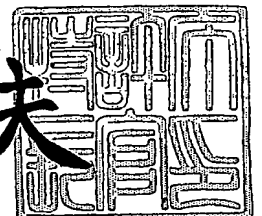
PCT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 3 年 1 0 月 3 1 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P06551412

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61K 7/50

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

 【氏名】 櫻井 尚枝

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

 【氏名】 田島 準

【特許出願人】

 【識別番号】 000000918

 【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

 【識別番号】 110000084

 【氏名又は名称】 特許業務法人アルガ特許事務所

 【代表者】 有賀 三幸

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 164232

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 洗浄剤組成物

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (A) アニオン界面活性剤、及び (B) トリメチルグリシンを含有する洗浄剤組成物であって、成分 (A) 及び (B) の重量比が $(A) / (B) = 1 / 3.5$ 以上 $4 / 1$ 未満であり、かつ該組成物自体の pH 又は精製水で使用濃度に希釈したときの pH が 2 以上 6.5 未満になるように調整されていることを特徴とする洗浄剤組成物。

【請求項 2】 成分 (A) のアニオン界面活性剤が、アルキルエーテル硫酸塩、アルケニルエーテル硫酸塩、エーテルカルボン酸塩型界面活性剤、アミドエーテルカルボン酸塩型界面活性剤、リン酸エステル塩型界面活性剤、N-アシルアミノ酸塩型界面活性剤、ポリオキシアルキレン脂肪酸アミドエーテル硫酸塩、アシル化イセチオン酸塩、アシル化タウレート、及び N-アルキルアミドアルカノール硫酸エステル塩から選ばれるものである請求項 1 記載の洗浄剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、安定性に優れ、皮膚に用いた場合、洗浄後の肌がしっとりして、つっぱり感やかさつきがなく、また毛髪に用いた場合、洗髪時の指通りがなめらかで、ごわつき感のない洗浄剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、皮膚や毛髪のための洗浄剤組成物には、高起泡性という特徴を有することから、高級脂肪酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルベンゼンスルホン酸塩、 α -オレフィンスルホン酸塩等のアニオン界面活性剤が広く用いられている。これらの界面活性剤は、洗浄力が高く、洗浄後にさっぱりした感触が得られるものの、肌のつっぱり感があるなどの問題があった。一方、いわゆる低刺激性の界面活性剤として、スルホコハク酸塩系界面活性剤、エーテルカルボン酸塩系界面活性剤、アミドエーテルカルボン酸塩系界面活性剤、N-アルキルアミドアル

カノール硫酸エステル塩等が提案されているが、これらの界面活性剤は、単独では起泡性や泡質などの点で十分満足できるものではなかった。

【0003】

このため、良好な泡立ちで、使用感に優れた洗浄剤組成物として、(A') アニオン界面活性剤と (B') トリメチルグリシンを、 $(A')/(B') = 100/1 \sim 4/1$ の割合で組み合わせた皮膚洗浄剤組成物が提案されている (特許文献 1)。しかしながら、この組成物は、泡立ちや泡質は改善されるものの、洗浄後、肌のつっぱり感や髪のごわつき感が残る等の点で十分満足できるものではなかった。

【0004】

【特許文献 1】

特開平 11-180855 号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、安定性に優れ、洗浄後の肌がしっとりして、つっぱり感やかさつきがない、また洗髪時の指通りがなめらかで、ごわつき感のない洗浄剤組成物を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、アニオン界面活性剤とトリメチルグリシンを特定の割合で用いるとともに、弱酸性に調整することにより、上記の課題が解決されることを見出した。

【0007】

本発明は、(A) アニオン界面活性剤、及び (B) トリメチルグリシンを含有する洗浄剤組成物であって、成分 (A) 及び (B) の重量比が $(A)/(B) = 1/3.5$ 以上 $4/1$ 未満であり、かつ該組成物自体の pH 又は精製水で使用濃度に希釈したときの pH が 2 以上 6.5 未満になるように調整されていることを特徴とする洗浄剤組成物を提供するものである。

【0008】

【発明の実施の形態】

本発明で用いる成分 (A) のアニオン界面活性剤としては、通常の洗浄剤に用いられるもので、組成物の pH を前記の範囲に調整できれば特に制限されない。例えば、アルキルエーテル硫酸塩、アルケニルエーテル硫酸塩、エーテルカルボン酸塩型界面活性剤、アミドエーテルカルボン酸塩型界面活性剤、リン酸エステル塩型界面活性剤、N-アシルアミノ酸塩型界面活性剤、ポリオキシアルキレン脂肪酸アミドエーテル硫酸塩、アシル化イセチオン酸塩、アシル化タウレート、N-アルキルアミドアルカノール硫酸エステル塩等が好ましいものとして挙げられる。

【0009】

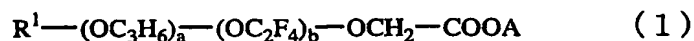
より具体的には、アルキルエーテル硫酸塩又はアルケニルエーテル硫酸塩としては、例えば平均炭素数 10～20 の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を有し、1 分子内に平均 0.5～8 モルのアルキレンオキサイドが付加したものが挙げられる。ここに、アルキレンオキサイドとしては、エチレンオキサイド、プロピレンオキサイド及びブチレンオキサイドを単独で、あるいは適宜組み合わせる用いることができる。

【0010】

エーテルカルボン酸塩型界面活性剤又はアミドエーテルカルボン酸塩型界面活性剤としては、例えば次の一般式 (1) で表わされるものが挙げられる。

【0011】

【化 1】



【0012】

〔式中、 R^1 は直鎖又は分岐鎖の炭素数 8～22 のアルキル基又はアルケニル基、アルキル ($C_8 \sim C_{22}$) フェニル基又は $R^2CONH-CH_2-CH_2-$ 基 (R^2 は炭素数 11～21 の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基である) を示し、 a は 0～6 の数を示し、 b は 2～24 の数を示し、 A はアルカリ金属、アルカリ土類金属、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン等のアルカ

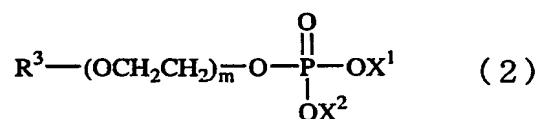
ノールアミン塩残基を示す]

【0013】

リン酸エステル塩型界面活性剤としては、炭素数8～36のアルキル基もしくはアルケニル基又はそれらのアルキレンオキサイド付加基を有するリン酸モノ又はジエステル塩型界面活性剤が挙げられ、例えば次の一般式(2)で表わされるものが挙げられる。

【0014】

【化2】



【0015】

(式中、 R^3 は炭化水素基を示し、 X^1 は水素原子、アルカリ金属、アンモニウム、塩基性アミノ酸塩又はアルカノールアミン塩を示し、 X^2 は水素原子、アルカリ金属、アンモニウム、塩基性アミノ酸塩、アルカノールアミン塩又は $\text{R}^3-(\text{OCH}_2\text{CH}_2)_m$ -の基を示し、 m は0～5の数を示す)

【0016】

式中、 R^3 で示される炭化水素基としては、炭素数8～36の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基が挙げられ、特に炭素数8～20の直鎖又は分岐鎖のアルキル基が好ましい。具体的には、オクチル基、ノニル基、デシル基、ウンデシル基、ドデシル基、テトラデシル基、ペンタデシル基、ヘキサデシル基、オクタデシル基、イコシル基等が挙げられる。

【0017】

また、 X^1 及び X^2 のうち、アルカリ金属としては、例えばリウチウム、ナトリウム、カリウム等が；塩基性アミノ酸としては、例えばアルギニン、リジン、ヒスチジン、オルニチン等が；アルカノールアミンとしては、炭素数2～3のヒドロキシアルキル基を有するものが好ましく、例えばトリエタノールアミン、ジエタノールアミン、モノエタノールアミン等が挙げられる。

更に、mは0～5の数を示し、特に0～2が好ましい。

【0018】

このようなリン酸エステル塩型界面活性剤としては、特にラウリルリン酸、ミリスチルリン酸、パルミチルリン酸又は2-ヘキシルデシルリン酸のアルギニン、カリウム又はトリエタノールアミン塩が好ましい。

【0019】

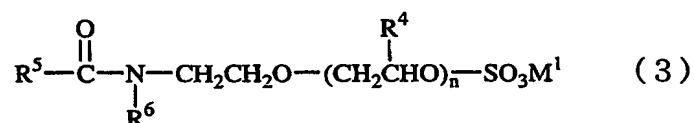
N-アシルアミノ酸塩型界面活性剤としては、炭素数8～24のアシル基を有するものが好ましく、具体的にはN-アシル-β-アラニン塩、N-アシルサルコシン塩、N-アシルグルタミン酸塩等が挙げられ、特にN-ラウロイル-β-アラニンアルギニン、N-ラウロイル-β-アラニンカリウム、N-ラウロイル-β-アラニントリエタノールアミン、ココイルグルタミン酸ナトリウム、N-ラウロイル-N-カルボキシメチル-β-アラニンナトリウムが好ましい。

【0020】

ポリオキシアルキレン脂肪酸アミドエーテル硫酸塩としては、例えば次の一般式(3)で表わされるものが挙げられる。

【0021】

【化3】



【0022】

[R⁴は水素原子又はメチル基を示し、R⁵は炭素数7～23の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、R⁶は炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、nは0～20の数を示し、M¹は硫酸残基の対イオンを示す]

【0023】

アシル化イセチオン酸塩としては、例えば炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の脂肪酸基を有するアシル化イセチオン酸塩が挙げられる。

【0024】

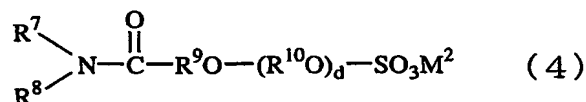
アシル化タウレートとしては、例えば炭素数 8～24 の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の脂肪酸基を有するアシルタウレートが挙げられる。

【0025】

N-アルキルアミドアルカノール硫酸エステル塩としては、例えば次の一般式(4)で表わされるものが挙げられる。

【0026】

【化4】



【0027】

(式中、 R^7 は炭素数 6～22 の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、 R^8 は炭素数 1～22 のアルキル基、アルケニル基又は水素原子を示し、 R^9 は炭素数 1～5 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基を示し、 R^{10}O は炭素数 2～3 のオキシアルキレン基を示し、 d は 0～20 の任意の数を示し、 d 個の R^{10}O は同一でも異なってもよい。 M^2 は水素原子、アルカリ金属、アルカリ土類金属、アンモニウム、総炭素数 2～9 のアルカノールアンモニウム、総炭素数 1～22 のアルキルアンモニウムもしくはアルケニルアンモニウム、炭素数 1～18 のアルキルもしくはアルケニル置換ピリジニウム、又は塩基性アミノ酸を示す)

【0028】

これらのアニオン界面活性剤のアニオン性残基の対イオンとしては、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属イオン；カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属イオン；アルギニン、リジン、ヒスチジン等の塩基性アミノ酸；アンモニウムイオン；炭素数 2 又は 3 のアルカノール基を有するアルカノールアミン、例えばモノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、トリイソプロパノールアミン等が挙げられる。

【0029】

成分(A)のアニオン界面活性剤は、1種以上を用いることができ、全組成中

に0.1～40重量%、特に0.3～30重量%含有させるのが、泡立ちや洗浄後のさっぱり感の点から好ましい。

【0030】

成分(B)のトリメチルグリシンはグリシンベタインとも呼ばれる分子内塩化合物であり、市販品としてアミノコート(旭化成社)等がある。本発明においては、これを全組成中に0.1～40重量%、特に0.5～30重量%含有させるのが、洗浄後の使用感から好ましい。

【0031】

本発明において、成分(A)及び(B)の重量比は $(A)/(B) = 1/3.5$ 以上 $4/1$ 未満であり、 $1/3$ 以上 $4/1$ 未満であることがより好ましい。この比が $1/3.5$ 未満では、安定性が悪く、また、洗浄後の肌がべたつき、 $4/1$ 以上では、洗浄後の肌のかさつきや毛髪のごわつきを十分に抑えることができない。

【0032】

また、本発明の洗浄剤組成物は、該組成物自体のpH又は精製水で使用濃度に希釈したときのpHが2以上6.5未満、好ましくは4～6.4になるように調整される。pH2未満では、安定性が悪く、pH6.5以上では、洗浄後の肌のかさつきや毛髪のごわつきを十分に抑えることができない。pHの調整は、通常の方法により、酸又はアルカリ溶液を用いて行えばよい。

なお、本発明においてpHは、洗口剤等原液で使用するものに関しては原液そのまま、手や身体、顔、毛髪等の洗浄剤のように、希釈して使用するものに関しては、組成物を精製水で使用濃度に希釈した水溶液(通常5重量%水溶液)について、25℃においてpHメーターを用いて測定する。また、後述のようなシート含浸タイプの製品の場合にも同様に、含浸液を原液として測定するか、精製水で希釈して(通常5重量%水溶液)測定する。

【0033】

本発明の洗浄剤組成物には、前記以外の界面活性剤、即ち、両性界面活性剤、カチオン界面活性剤、非イオン界面活性剤を含有させることができる。

両性界面活性剤としては、例えば脂肪酸アミドプロピルベタイン、ヒドロキシ

プロピルスルホベタイン、脱塩処理した2級のイミダゾリニウムベタイン等が挙げられる。

カチオン界面活性剤としては、例えば炭素数12～16の直鎖モノアルキル第4級アンモニウム塩、炭素数20～28の分岐アルキル基を有する第4級アンモニウム塩等が挙げられる。

【0034】

非イオン界面活性剤としては、アミノオキサイド類、モノグリセライド類、ソルビタン脂肪酸エステル類、アルキルサッカライド、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、高級脂肪酸アルカノールアミド等が挙げられる。具体的には、例えばラウリルジメチルアミノオキサイド、ミリスチルジメチルアミノオキサイド、イソステアリン酸モノグリセライド、オレイン酸モノグリセライド、オクタン酸モノグリセライド、ソルビタンモノカプリレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタントリオレエート、ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド等が好ましいものとして例示される。

【0035】

これらの両性界面活性剤、カチオン界面活性剤、非イオン界面活性剤は1種以上を用いることができ、全組成中に合計で0.001～30重量%、特に0.01～20重量%含有させるのが好ましい。

【0036】

本発明の洗浄剤組成物には、更に、通常の洗浄剤組成物に用いられる成分を含有させることができる。具体的には、ラノリン及びその誘導体、ミリスチン酸イソプロピル等のエステル類、ヤシ油、オリーブ油などの油脂類等の油性成分；ポリグリセリン脂肪酸エステル等の保湿剤；トリクロサン、トリクロロカルバニリド等の殺菌剤；グリチルリチン酸カリウム、酢酸トコフェロール等の抗炎症剤；メチルパラベン、ブチルパラベン等の防腐剤；エチレンジアミン四酢酸又はその塩、ヒドロキシエタンジホスホン酸又はその塩等のキレート剤；クエン酸、コハク酸等のpH調整剤；カルボキシビニルポリマー、カラギーナン、ヒドロキシエチルセルロース、カチオン化セルロース等の増粘剤；プロピレングリコール、1，

3-ブタンジオール、グリセリン、ソルビトール、マルチトール等のポリオール類；塩化ナトリウム等の塩類；その他パール化剤、スクラブ剤、香料、色素、紫外線吸収剤、酸化防止剤、植物エキスなどである。

【0037】

本発明の洗浄剤組成物は、常法により前記成分を混合することにより製造することができる。例えば液体剤型として、洗顔料、メイク落とし、ボディシャンプー、ハンドソープ等の皮膚洗浄剤組成物や、シャンプー等の毛髪洗浄剤組成物、洗口液等の口腔内洗浄剤組成物とすることができる。また、織布、不織布、紙等のシート基材に液体組成物を含浸させ、必要に応じて乾燥させたシート含浸タイプの洗浄用製品とすることができる。

【0038】

【実施例】

実施例 1

表 1 に示す組成の洗浄剤組成物を常法により製造し、肌を洗浄した後の肌のつっぱり感のなさ、しっとり感、かさつかない感じ及びべたつかない感じ、毛髪を洗浄した後の毛髪の指通り及び柔らかさ、並びに安定性を評価した。結果を表 1 に併せて示す。

なお、実施例において、組成物の pH は、各組成物を精製水で 5 重量％に希釈した水溶液について、ホリバ pH メーター F-22（堀場製作所社製）を用い、25℃にて測定した。

【0039】

（評価方法）

（1）肌を洗浄した後の肌のつっぱり感のなさ、しっとり感、かさつかない感じ、べたつかない感じ：

20～30代の日本人女性10名のパネリストにより、各洗浄剤組成物1gを泡立てて全顔を60秒間マッサージした後、流水ですすぎ、タオルドライした後の肌のつっぱり感のなさ、しっとり感、かさつかない感じ、べたつかない感じを、以下の基準で官能評価した。

3；つっぱらない、しっとりする、かさつかない、べたつかない。

2 ; ややつっぱる、少ししっとりする、ややかさつく、ややべたつく。

1 ; つっぱる、しっとりしない、かさつく、べたつく。

平均スコアを求め、平均スコア 2. 5 ~ 3. 0 を○、1. 5 ~ 2. 4 を△、1. 0 ~ 1. 4 を×として示した。

【 0 0 4 0 】

(2) 毛髪を洗浄した後の毛髪の指通り、柔らかさ：

2 0 ~ 3 0 代の日本人女性 1 0 名のパネリストにより、濡らした毛髪に、各洗浄剤組成物 3 g をなじませ、1 2 0 秒間洗髪した後、流水ですすぎ、乾燥した後の毛髪の指通り、柔らかさを、以下の基準で官能評価した。平均スコアを求め、

(1) と同様にして示した。

3 ; 指通りがなめらか、柔らかい。

2 ; あまりなめらかでない、少しごわつく。

1 ; 指に引っかかる感じがする、ごわつく。

【 0 0 4 1 】

(3) 安定性：

1 0 0 mL のガラス製サンプル瓶に、各洗浄剤組成物 8 0 g を入れ、5℃で1日保存した後、粘度を測定し、以下の基準で評価した。

○ ; ほとんど増粘しない。

△ ; 少し増粘が見られる。

× ; 著しく増粘する。

【 0 0 4 2 】

【表1】

成分 (重量%)		本発明品						比較品					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
A	アルキル(C11, 13, 15)リン酸カリウム			10		15	10			10		15	10
	ラウリルリン酸カリウム				10						10		
	ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12			5		5	12			5		5
	ココイルグルタミン酸ナトリウム (アミソフCS-22, 味の素・タカラコーポレーション社製)		5						5				
	N-ラウロイル-N-カルボキシメチル-β-アラニンナトリウム	5	10	15	4	10	10	5	10	15	4	3	55
B	トリメチルグリシン			5						5			
	グリセリンモノ-2-エチルヘキシルエーテル							2					
	ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド (アミノゾールCMR, 川研ファインケミカル社製)	2											
	ラウリン酸アミドプロピルピペタイン			5		5	5			5		5	5
	クエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	水酸化カリウム液	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	pH (5重量%)	5.0	5.5	6.0	6.4	5.5	5.5	6.8	7.2	7.8	10.9	5.5	5.5
	(A) / (B) 重量比	12/5	1/2	2/3	15/4	3/2	3/2	12/5	1/2	2/3	15/4	5/1	3/11
	洗浄後の肌のつっぱり感のなさ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○
	洗浄後の肌のしっとり感	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○
	洗浄後の肌のかさつかない感じ	○	○	○	○	○	○	×	△	△	×	△	○
	洗浄後の肌のべたつかない感じ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×
	洗浄後の毛髪の指通り	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△
	洗浄後の毛髪の柔らかさ	○	○	○	○	○	○	△	△	×	×	△	○
	安定性	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	×

【0043】

実施例 2 (洗顔料)

以下に示す組成の洗顔料を常法により製造した。

(成分)

アルキル(C11, 13, 15)リン酸カリウム	15 (重量%)
トリメチルグリシン	20
グリセリンモノ-2-エチルヘキシルエーテル	5
ポリオキシエチレン(9)トリデシルエーテル	5
コカミドプロピルベタイン	5
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	1
カルボキシビニルポリマー	0.5
ポリエチレングリコール(アルコックスE-100、明成化学工業社製)	0.5
グリセリン	10
プロピレングリコール	10
リン酸	適量
酸化チタン	0.01
メチルパラベン	0.2
香料	適量
ジブチルヒドロキシトルエン	0.1
精製水	バランス

(pH (5重量%水溶液) = 5.5、(A) / (B) = 3 / 4)

【0044】

実施例 3 (洗顔料)

以下に示す組成の洗顔料を常法により製造した。

(成分)

ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテルリン酸ナトリウム	10 (重量%)
ココイルグルタミン酸ナトリウム	
(アミソフトCS-11、味の素・タカラコーポレーション社製)	5
トリメチルグリシン	5

ラウロイルヒドロキシスルホベタイン	5
ヒドロキシエチルセルロース	0.5
カチオン性ポリマー(マーコート550、マツモト交商社製)	0.5
ジステアリン酸エチレングリコール	3
ソルビトール	10
イソプレングリコール	10
乳酸ナトリウム	1
雲母チタン(Timiron Starluster MP-115、メルク・ジャパン社製)	0.01
安息香酸ナトリウム	0.2
ポリエチレンビーズ	0.8
1-メントール	0.05
香料	適量
タルク	3
エデト酸二ナトリウム	0.1
精製水	バランス

(pH (5重量%水溶液) = 5.0、(A) / (B) = 3 / 1)

【0045】

実施例4 (ボディシャンプー)

以下に示す組成のボディシャンプーを常法により製造した。

(成分)

ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテルリン酸ナトリウム	20 (重量%)
トリメチルグリシン	10
アルキルポリグルコシド (AG-10LK、花王社製)	5
ポリオキシエチレン(16)ラウリルエーテル	2
ラウロイルヒドロキシスルホベタイン	5
アルギニン	0.5
ヒドロキシプロピルメチルセルロース	0.5
両性ポリマー (マーコートプラス3330、マツモト交商社製)	0.5
ソルビトール	10

ジプロピレングリコール	10
リンゴ酸	適量
1-メントール	0.1
安息香酸ナトリウム	0.2
香料	適量
ジステアリン酸エチレングリコール	3
1-ヒドロキシエタン-1, 1-ジホスホン酸 (ディクエスト2010CS、三菱モンサント社製)	0.1
色素(青色1号)	0.0002
精製水	バランス

(pH (5重量%水溶液) = 6.4、(A) / (B) = 2 / 1)

【0046】

実施例5 (シャンプー)

以下に示す組成のシャンプーを常法により製造した。

(成分)

ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	15 (重量%)
トリメチルグリシン	5
ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド	5
ラウリン酸アミドプロピルベタイン	5
2-ラウリル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシ エチルイミダゾリニウムベタイン	5
セリン	0.5
ポリエーテル変性シリコーン (シリコーンSH-3771E、 東レ・ダウコーニング・シリコーン社製)	0.5
ジメチルポリシロキサン (シリコーンSH-200C(5000cs)、 東レ・ダウコーニング・シリコーン社製)	0.5
プロピレングリコール	10
エタノール	1
無水ケイ酸	0.2

メチルパラベン	0.2
塩化O-[2-ヒドロキシ-3-(トリメチルアンモニオ)プロピル]	
ヒドロキシエチルセルロース	0.1
アスナロエキス	0.1
香料	適量
クエン酸	適量
精製水	バランス

(pH (5重量%水溶液) = 5.0、(A) / (B) = 3 / 1)

【0047】

実施例6 (ハンドソープ)

以下に示す組成のハンドソープを常法により製造した。

(成分)

ラウリルリン酸カリウム	5 (重量%)
トリメチルグリシン	2
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3
ポリオキシエチレン(4)ポリオキシプロピレン(7)ブチルエーテル	5
ポリオキシエチレン(80)硬化ヒマシ油	0.5
ラウリルジメチルアミンオキサイド	5
コカミドプロピルベタイン	5
マルチトール	0.5
グリセリン	10
エタノール	1
チューベロースポリサッカライド	0.5
イソプロピルメチルフェノール (ビオゾール、大阪化成社製)	0.01
デヒドロ酢酸ナトリウム	0.2
香料	適量
精製水	バランス

(pH (5重量%水溶液) = 5.5、(A) / (B) = 5 / 2)

【0048】

実施例 7 (薬用ハンドソープ)

以下に示す組成の薬用ハンドソープを常法により製造した。

(成分)

ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	10 (重量%)
トリメチルグリシン	20
アルキルグルコシド (AG-10LK、花王社製)	10
ポリオキシエチレン(20)ヤシ油脂肪酸ソルビタン (レオドールTW-L120、花王社製)	1
ポリオキシエチレン(60)硬化ヒマシ油	0.5
グリチルリチン酸ジカリウム	1
塩化ラウリルトリメチルアンモニウム	10
グリセリン	10
エタノール	1
香料	適量
色素 (黄色 1 号)	0.0001
エデト酸二ナトリウム	0.1
メチルパラベン	0.1
コハク酸	適量
精製水	バランス

(pH (5 重量%水溶液) = 4.5、(A) / (B) = 1 / 2)

【0049】

実施例 8 (洗口液)

以下に示す組成の洗口液を常法により製造した。

(成分)

ミリスチルリン酸アルギニン	0.5 (重量%)
トリメチルグリシン	0.5
エタノール	5
ソルビトール	10
メチルパラベン	0.1

ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体

(KHF-4、信越化学工業社製)

0.03

塩化ベンゼトニウム

0.01

サッカリンナトリウム

0.001

香料、フレーバー

適量

精製水

バランス

(pH (原液) = 6.0、(A) / (B) = 1 / 1)

【0050】

実施例 9 (シート含浸洗顔料)

以下に示す組成の洗顔料を常法により製造し、コットン不織布に適量を含浸した後、80℃で1分間乾燥することにより、シート状ドライワイプが得られる。使用時には、水でぬらして泡立てて用いる。

(成分)

ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム 20 (重量%)

トリメチルグリシン 10

コカミドプロピルベタイン 10

アルキルグルコシド (AG-10LK、花王社製) 10

ポリエチレングリコール 1500 2

1,3-ブチレングリコール 10

ユーカリエキス 0.1

メチルパラベン 0.1

エデト酸二ナトリウム 0.1

1-メントール 0.05

リンゴ酸 適量

ポリエチレングリコール 400 バランス

(pH (5重量%水溶液) = 5.5、(A) / (B) = 2 / 1)

【0051】

実施例 2～9 で得られる洗浄剤組成物はいずれも、安定性に優れたものである。また、実施例 2～4、6、7 及び 9 の皮膚洗浄剤組成物はいずれも、肌を洗浄

した後につっぱり感がなく、しっとりとして、かさつきやべたつきがないものであり、実施例 5 の毛髪洗浄剤組成物は、洗髪後の毛髪の指通りがなめらかで、柔らかいものであり、実施例 8 の口腔内洗浄剤組成物は、洗口後の歯がなめらかで、爽快感が持続するものである。

【0052】

【発明の効果】

本発明の洗浄剤組成物は、安定性に優れ、肌を洗浄したときには、つっぱり感がなく、しっとりとして、かさつきやべたつきがないものであり、毛髪を洗浄したときには、毛髪の指通りがなめらかで、柔らかいものであり、口腔内を洗浄したときには、歯がなめらかで、爽快感が持続する。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 安定性に優れ、洗浄後の肌がしっとりして、つっぱり感やかさつきがなく、また洗髪時の指通りがなめらかで、ごわつき感のない洗浄剤組成物を提供する。

【解決手段】 (A) アニオン界面活性剤、及び (B) トリメチルグリシンを含有する洗浄剤組成物であって、成分 (A) 及び (B) の重量比が $(A) / (B) = 1 / 3.5$ 以上 $4 / 1$ 未満であり、かつ該組成物自体の pH 又は精製水で使用濃度に希釈したときの pH が 2 以上 6.5 未満になるように調整されていることを特徴とする洗浄剤組成物。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-380452
受付番号	50201987716
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0094
作成日	平成15年 1月 6日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年12月27日

次頁無

特願 2002-380452

出願人履歴情報

識別番号

[000000918]

1. 変更年月日

1990年 8月24日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

氏 名

花王株式会社